

CKJSだより

第51号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

子どもをどう見るか

子どもたちの発達は、それを「形」にたとえてみると非常にゴツゴツした角もへこみもあるものです。子どもは、いろいろな価値を程よく取りそろえていつも調和を保って伸びていく、というわけにはいきません。一つの価値が子どもの中に取り込まれている時は、他のことがおろそかになったり、全体としてゆがんできたりすることは避けられません。子どもたちは、いわばいい子になったり悪い子になったりしながら育つのです。しかも、そのゆがんで悪い子のように見える時ほど、新しい価値を取り込み、一層大きくなろうとしている時なのです。

私の子どもが小学校3年生頃の話です。頼んだことをすぐ忘れて、言いつけを守らなかったりすることが多くなった時期でした。遠くへ遊びに行き帰りの約束の時間を守らないこともしばしば。風邪をひいて熱があるのでお医者さんに行かせたら、結局行かずに暗くなってザリガニを持って帰ってきたこともありました。理由を聞くと、お医者さんに行く途中で友達と会ってザリガニ取りをやっているうちに、熱のあることも、医者に行くのも忘れて夢中になってしまった。気が付いたら暗くなっているので帰って来てしまったということです。



「物事に興味が深くなり、夢中になる」こういう価値を取り込もうとしている時、多少忘れっぽくなったり、約束や言いつけを守れなかったりすることは避けられません。交友関係が広くなり、友だちとのぶつかり合いが激しくなれば、多少乱暴になり、いさかきをするようになることもあります。自分の内面が分化し始め、自分を見つめる目が鋭くなれば、表情が暗くなったり、すねたもの見方になったりするような変化を伴うのは当然のことなのです。

こうして、子どもたちはその成長の過程に立ちあがるいくつもの壁を乗り越えるために、ゆがんだり、いびつになったりしながら発達していきます。そのゆがんだ側面だけに目を向けずに、一見いびつに見える変化の中に潜んでいる価値ある発達の芽を引き出してあげたいものです。「君はこんなに素晴らしく伸びているんだよ」と気付かせてあげる、教師として、そして親としても心がけたいものです。

いよいよ夏休みです。休み中は子どもと接する時間が長くなる時です。変化を見逃すことなく、じっくり我が子の良さを発見してあげてください。

※【今年度の青少年読書感想文コンクールの課題図書が購入されました】

<https://www.dokusyokansoubun.jp/youkou.html>